

## 4 - 5 東海地方の小地震活動 (1979年4月～1980年5月)

Activity of Small Earthquakes in the Tokai District (April 1,1979-May 31,1980)

気象庁地震課 地震予知情報室  
OIEP, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

気象庁では東海地域及びその周辺の小地震活動の常時監視のため震源計算装置<sup>1)</sup>により、地震観測資料の緊急処理を行っている。

第1図及び第2図は、それぞれ、この装置により求めた、1979年4月から12月まで、及び1980年1月から5月までの震央分布図(ただしh:0～60km)である。

第1図では、伊豆半島川奈崎沖の群発地震活動<sup>2)</sup>のためこの地域の回数が多くなっている。また、長野県王滝村付近の群発地震<sup>3)</sup>もこの期間多数起っている。

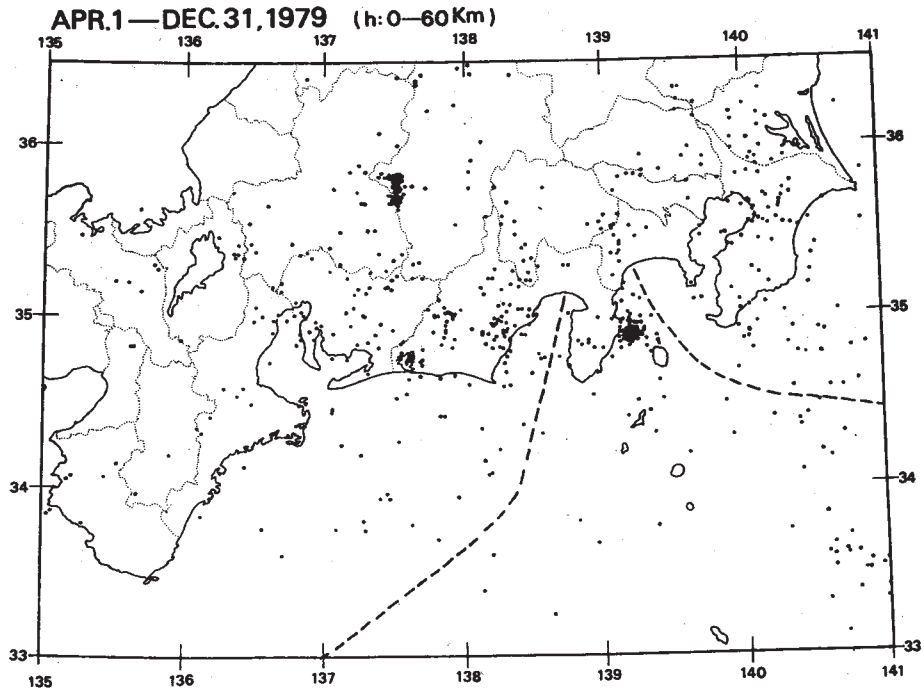
今年に入ってから(第2図)は、特に注目すべき活動はないようである。

第3図は、左上図に示した範囲内で、それぞれAとBの部分(陸地を含む)に起った地震(第1図及び第2図に同じ、ただし範囲は多少異なる)について累積回数の時間的変化を示したものである。第4図は同様に、Aの部分とそれ以外の部分とに分けた場合の図である。

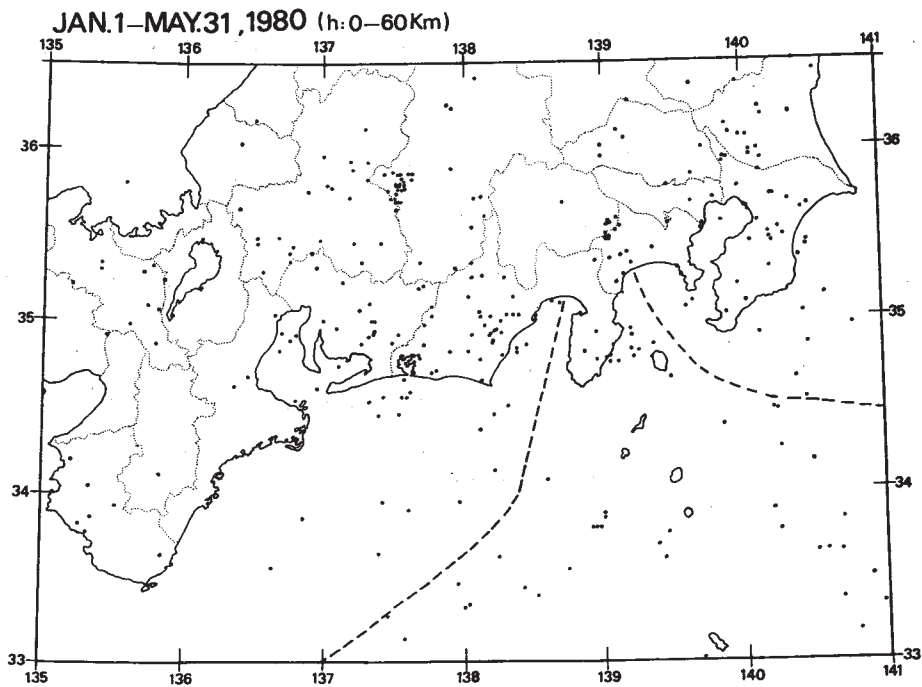
第3図、第4図のBで1979年5月下旬の大きな変化は、川奈崎沖地震の影響である。

### 参 考 文 献

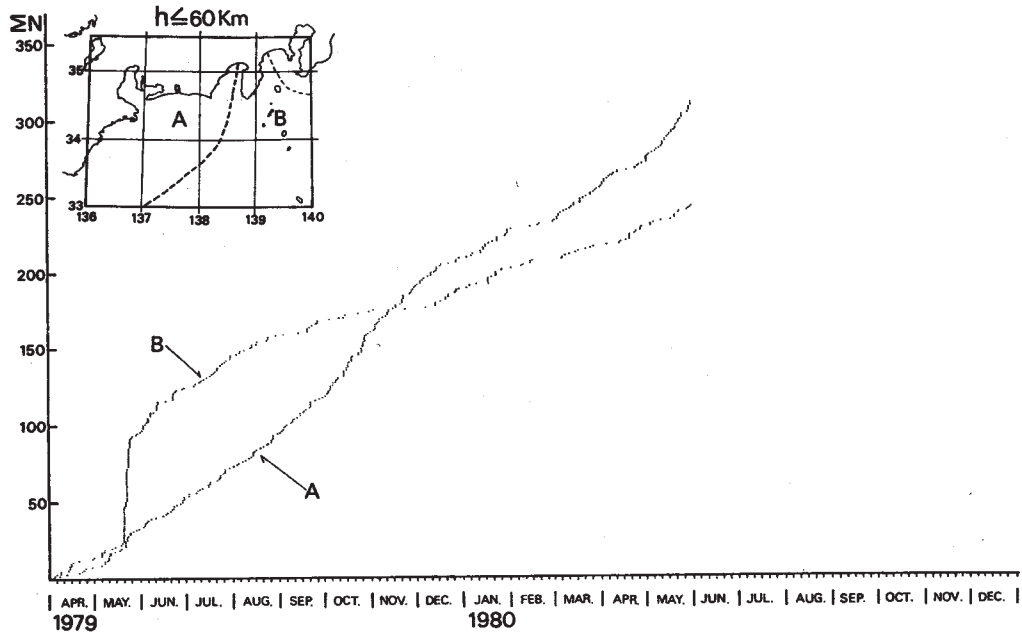
- 1) 市川政治・藤沢 格・吉田 弘:震源計算装置と処理結果, 験震時報, **44** (1980), 75 - 85.
- 2) 気象庁地震予知情報室:伊豆半島川奈崎沖の群発地震について, 連絡会報, **22** (1979), 63 - 67.
- 3) 気象庁地震予知情報室:長野県王滝村付近の地震の群発について, 連絡会報, **23** (1980), 118 - 119.



第1図 小地震の震央分布図(1979年4月1日—12月31日)  
 Fig. 1 Distribution of epicenters of small earthquakes (Apr. 1, 1979—Dec. 31, 1979).

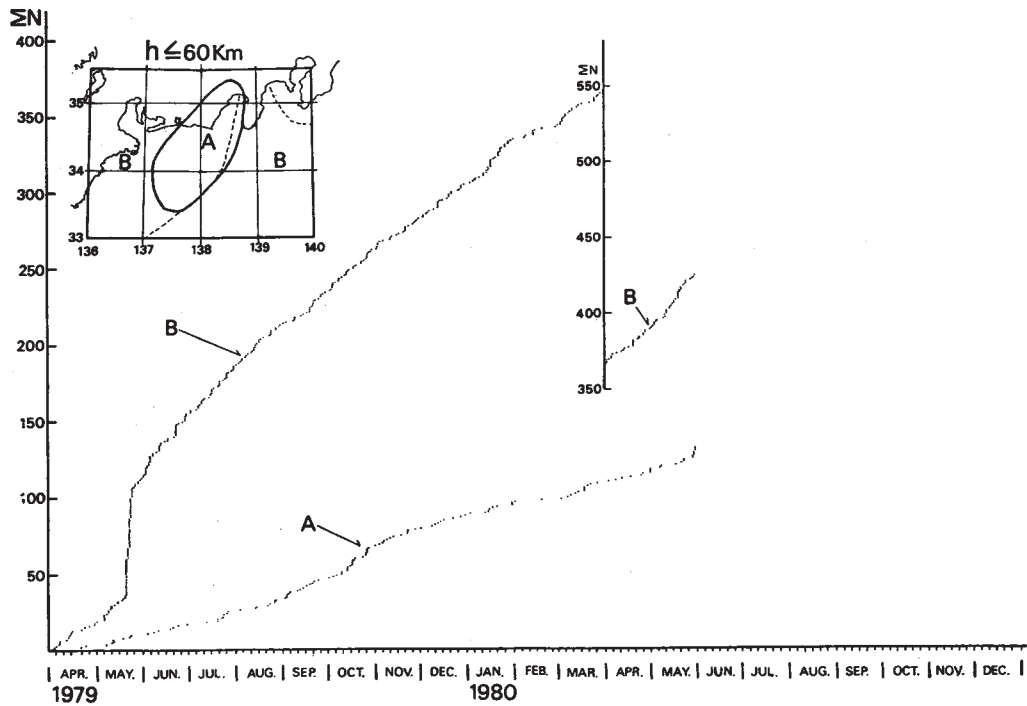


第2図 小地震の震央分布図(1980年1月1日—5月31日)  
 Fig. 2 Distribution of epicenters of small earthquakes (Jan. 1, 1980—May 31, 1980).



第3図 東海地域(A)及び伊豆諸島地域(B)における地震活動の比較

Fig. 3 Daily number of cumulative frequency of earthquakes that occurred in regions A and B, respectively.



第4図 A地域及びそれ以外の地域(B)における地震活動の比較

Fig. 4 Daily number of cumulative frequency of earthquakes that occurred in regions A and B, respectively.